

内外水統合型の多段階浸水想定図・水害リスクマップ ＜補足資料＞

令和8年6月
国土交通省 四国地方整備局
徳島河川国道事務所 流域治水課

多段階浸水想定図及び水害リスクマップ

- 国や県では、洪水時の迅速かつ円滑な避難に資する水害リスク情報として、想定最大規模の洪水を対象に「洪水浸水想定区域図」を作成・公表してきました。
- 令和4年度には、流域治水の取組を推進するため、高頻度～低頻度まで複数の規模の洪水を対象とし、「多段階浸水想定図」および「水害リスクマップ」を作成・公表しました。
- 今年度は、更なる再現性向上を図るため、解析対象の河川として中小河川・水路等（内水氾濫）を追加した**内外水統合型**の「多段階浸水想定図」および「水害リスクマップ」を作成しました。

■関連する水害リスク情報の公表履歴

公表	作成	公表図面	対象河川	洪水の規模	主たる活用方法
H28	国	洪水浸水想定区域図	・ 国管理河川	・ 想定最大規模	・ 避難行動
H30	県	洪水浸水想定区域図	・ 県管理河川	・ 想定最大規模	・ 避難行動
・ ・ ・	市町	水害ハザードマップ	・ 国、県管理河川等	・ 想定最大規模 (もしくは計画規模)	・ 避難行動
R4	国	多段階浸水想定図/水害リスクマップ	・ 国管理河川	・ 想定最大規模 ・ 低頻度～高頻度で発生する規模	・ 防災まちづくり ・ 企業立地選択
R6 今回公表	県	洪水浸水想定区域図	・ 中小河川	・ 想定最大規模	・ 避難行動
R7	国	【内外水統合型】 多段階浸水想定図/水害リスクマップ	・ 国管理河川、 中小河川、水路など	・ 想定最大規模 ・ 高頻度～低頻度で発生する規模	・ 防災まちづくり ・ 企業立地選択

多段階浸水想定図、水害リスクマップとは



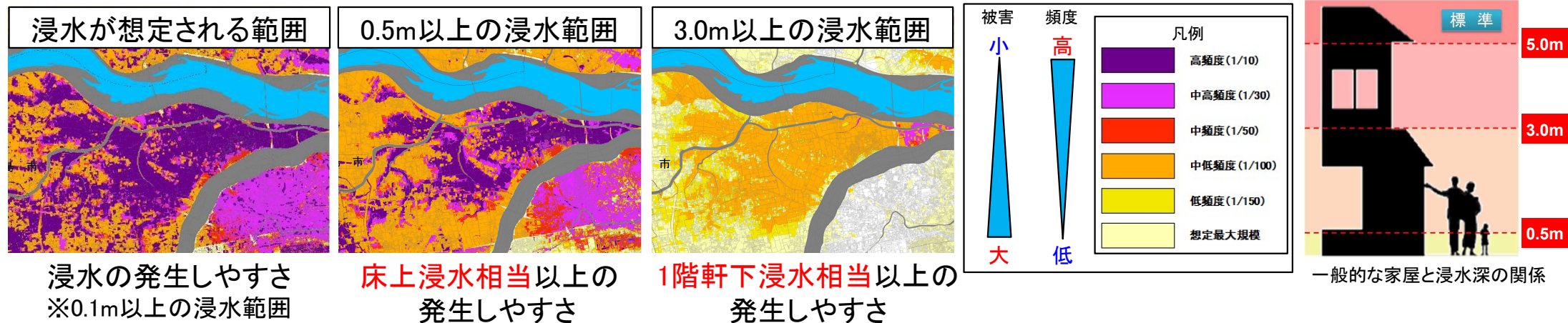
■多段階浸水想定図

発生頻度ごとに浸水範囲と浸水深を示した図です。



■水害リスクマップ

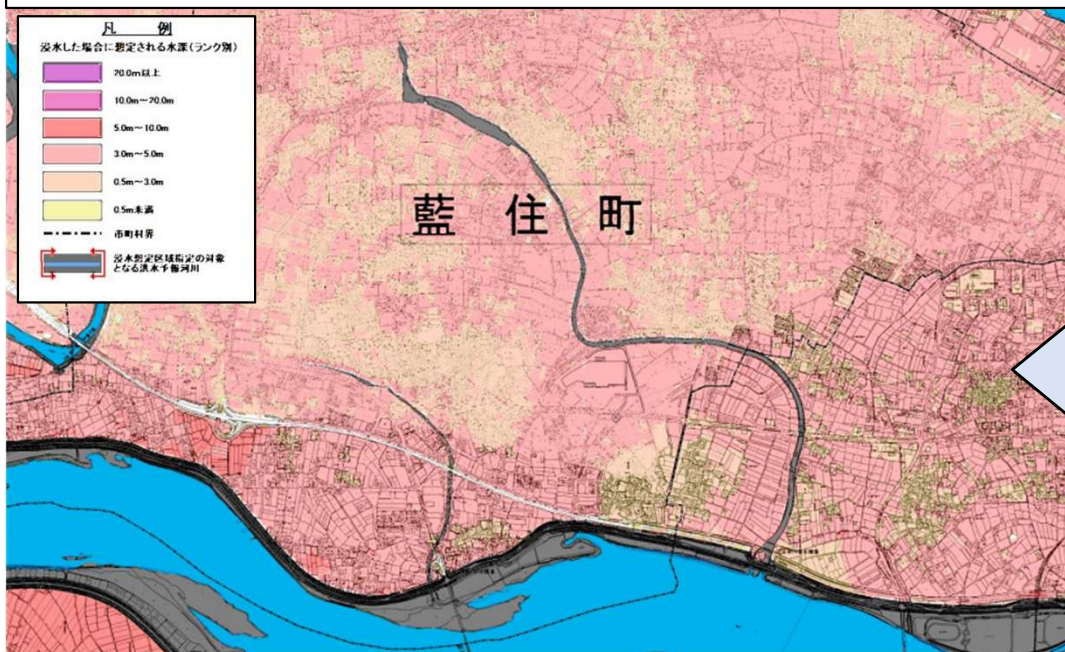
多段階浸水想定図を重ね合わせ、浸水範囲と浸水頻度の関係性を図示した図です。



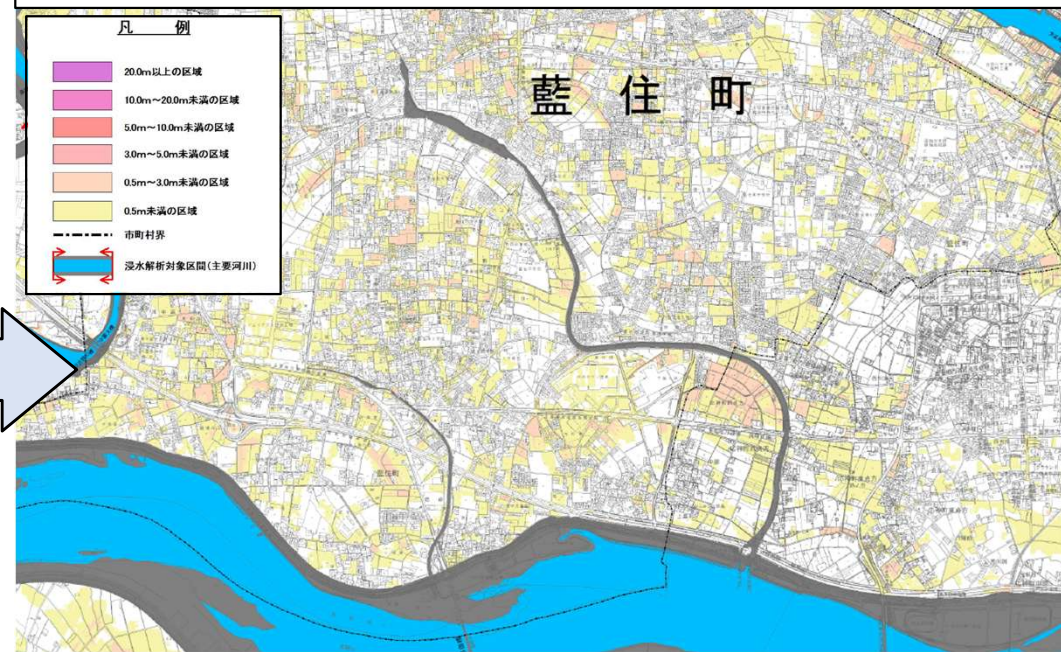
多段階浸水想定図の活用例

- 降雨の規模ごとに**浸水範囲**と**浸水深**を確認できるため、主に**土地利用・避難行動の検討**に活用されます。
- 目的に応じて洪水浸水想定区域図と使い分けることが重要です。

洪水浸水想定区域図(想定最大規模)



多段階浸水想定想定図(1/10)



想定し得る最大規模の洪水による**浸水範囲**と**浸水深**

- 大規模洪水に対するリスク分析、避難計画立案
- 避難所や用配慮者施設の立地選択

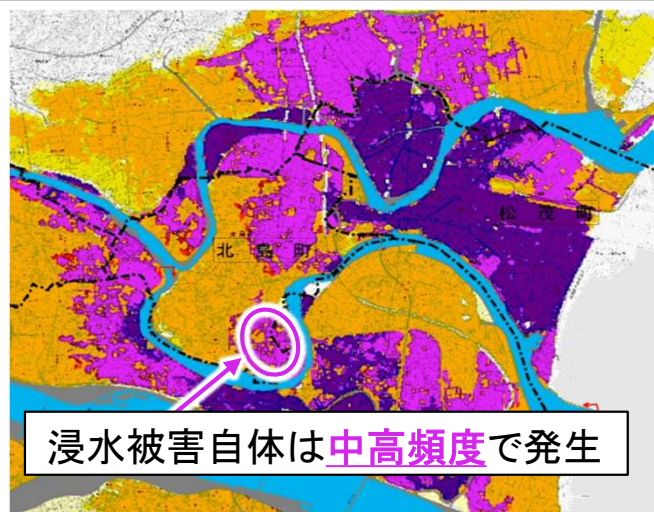
高頻度(1/10)の洪水による**浸水範囲**と**浸水深**

- 中小規模洪水に対するリスク分析、避難計画立案
- 土のう袋の準備など、小規模洪水に対する備え

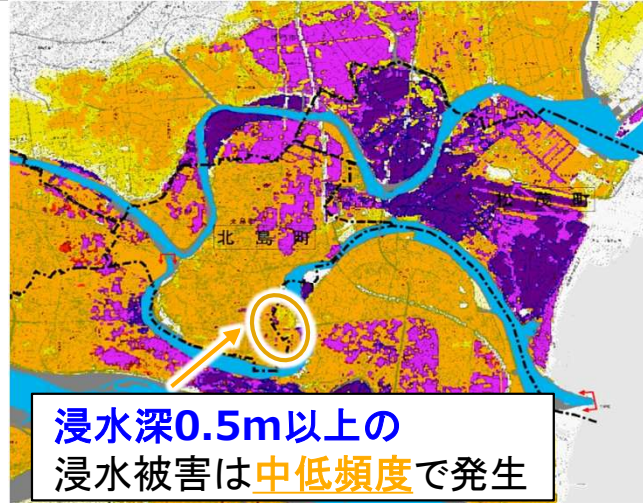
水害リスクマップの活用例

- 水害リスクマップでは、3つの浸水深ごとに浸水被害が発生する**浸水範囲**と**浸水頻度**を把握できます。
- 主に土地利用や企業立地選択といった**防災まちづくりの検討**に活用できます。

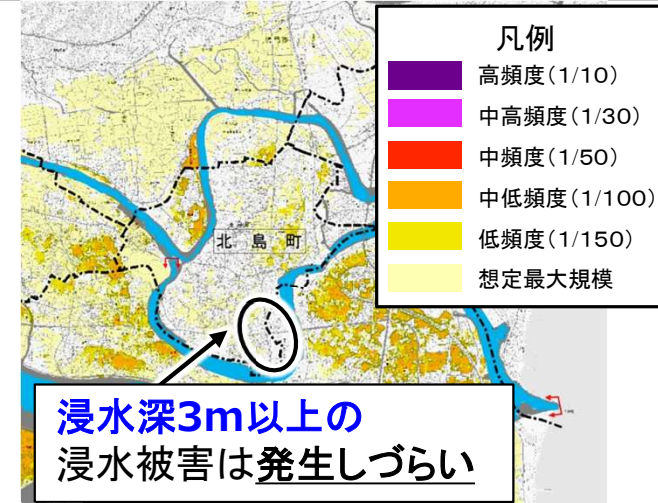
①浸水が想定される範囲



②0.5m以上の浸水範囲（床上浸水相当以上）



③浸水約3m以上（一階居室浸水相当以上）



浸水深毎の使い分け(例)

①浸水が想定される範囲

- 頻度の高いエリアへの住居・施設の立地を避ける
- 洪水流を防御するための止水壁を設置する
- 保険を見直す
- 室外機や電源を高所に移設する

②0.5m以上の浸水範囲（床上浸水相当以上）

- 事業継続に必要な資材や資産などを2階以上に移動させる

③3.0m以上の浸水範囲（一階居室浸水相当以上）

- 1階をピロティ構造とし、寝室や居室は2階以上に配置する



保険の見直し



室外機の高所移設



止水壁の設置



高床化による浸水対策

よくある質問

Q1: 高頻度(1/10)で着色されているエリアは、10年に1回必ず浸水が発生する？

A1: 各頻度(1/〇〇)は1年間で浸水が発生する確率を表しています。
発生する確率は毎年1/10であるため、10年間で必ず1回発生するわけではありません。
また、1年間で複数回発生する可能性もゼロではありません。

例)

2026年	2027年	2028年	...	20XX年
1/10	1/10	1/10	1/10	1/10

Q2: 平成16年10月に発生した洪水はどのくらいの頻度(規模)だった？

A2: 流域全体の評価では、およそ1/30規模の洪水でした。
浸水面積は10,765ha、床上浸水884戸、床下浸水2,432戸の被害が発生し、
吉野川水系で戦後最大規模の洪水となりました。



Q3: 多段階浸水想定図や水害リスクマップは自治体のハザードマップにも反映される？

A3: 洪水浸水想定区域図(H28)と異なり「水防法」に基づく図面では無いため、
ハザードマップへの反映義務はありません。反映の有無は各自治体の判断に委
ねられています。



よくある質問

Q4: 私の住んでいるエリアはこれまで浸水が発生したことがないが、
高頻度の着色がある。解析結果は正しいのか？

A4: Q1に記載の通り、各頻度は必ずしも実績に対応する指標ではございません。
また、気候変動の影響により、出水の激甚化、頻発化が懸念されています。
過去の経験によらず、リスクを正しく認識し、適切な対応行動をとりましょう。



Q5: どの規模も着色がない場合は浸水リスクはないと思って大丈夫？

A5: 一部の下水道や極小規模の水路網等は解析対象に含まれておらず、
着色がないからといって、浸水リスクがないわけではありません。
あくまでシミュレーション結果であることにご留意いただき、出来ることから備え始めましょう。

Q6: 周囲と高さが同じなのに、自宅周辺だけ高リスクになっているのはなぜ？

A6: 地盤高は平成21年度の測量結果をベースとし、大規模な地形改変が見られた箇所につ
いて、部分的に最新の測量結果に置き換えているため、測量年度や宅地造成の規模に
よっては、図面に考慮できていない場合があります。

よくある質問

Q7: 徳島県や徳島市が公表している浸水想定と何が違いますか。

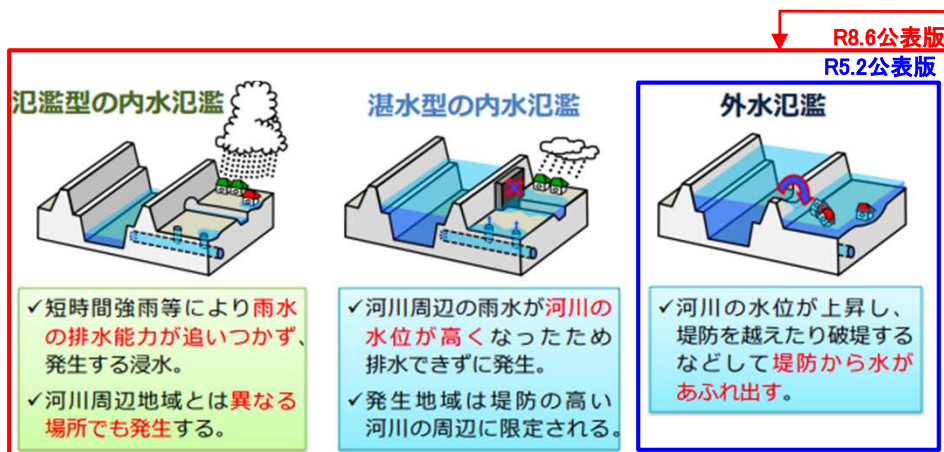
A7: 徳島県や徳島市が公表している浸水想定図は、令和3年5月に改正された水防法に基づき、想定し得る最大規模の降雨を外力とし、県内の中小河川を対象に別箇に氾濫解析を行っています。本マップでは、1/10～1/150(高頻度から低頻度)の降雨を外力とし、吉野川流域全体(国の直轄管理河川および自治体管理の河川、下水道等)を一体的に解析・図示したものとなります。また、解析上の降雨条件(解析上の雨の降り方や量)も異なる場合があります。

Q8: 浸水が想定される地域では、国はどのような対策を取るのですか。

A8: 堤防整備や河道掘削などのハード対策に加えて、リスク情報の公表や出前講座を通じた防災教育など、ソフト対策を進めます。また、自治体や企業など、流域内のあらゆる関係者と協働し、貯留施設の整備や土地利用の規制、ダムやため池の事前放流といった治水対策を行う、「流域治水」の取り組みを進めて参ります。



項目	洪水浸水想定区域図			多段階浸水想定図・水害リスクマップ	
	H28.6(国) 公表版	H30～R1(県) 公表版	R6.4(県) 公表版	R5.2公表版	R8.6公表版
把握できる情報	想定し得る最大の浸水範囲、浸水深(m)			・確率規模に応じた浸水範囲、浸水深(m) ・浸水頻度(浸水しやすさ)	
降雨規模	想定最大規模 (1/1000以上)			多段階の確率規模 (1/10～1/150)	
主な活用方法	避難計画の検討等			防災まちづくり、住まい方の工夫、 BCP(事業継続計画)の策定への活用等	
対象河川の分類 ※()内は図面上での表現	大河川 (主要河川)		中小河川 (その他河川)	大河川 (主要河川)	大河川＋中小河川＋水路等 (主要河川＋その他河川＋下水道等)
河川区間	国管理区間	県管理区間		国管理区間	国＋県管理区間＋市町管理区間
氾濫形態	外水氾濫のみ			外水氾濫	外水氾濫＋内水氾濫(氾濫型・湛水型)
地盤高データ	H21計測の地盤高データをもとに作成			洪水浸水想定区域図で作成したデータをベースに、比較的大きな 地形改変があった箇所については、R2計測のデータに差し替えて作成	



出典: 気象庁「避難勧告等に関する諸情報(洪水・浸水)の技術について」
氾濫形態の概念図

対象河川の分類定義

分類名	河川規模	定義
主要河川	大河川	水防法に基づく洪水浸水想定区域図を作成している河川
その他河川	中小河川	主要河川以外の一級河川・二級河川
下水道等	水路等	上記以外の準用河川、普通河川、農業用排水路、都市下水道等